



APOLLO  
MEDICAL HOLDINGS

# 海外研修だより

～薬剤師だって、空を飛ぶ～



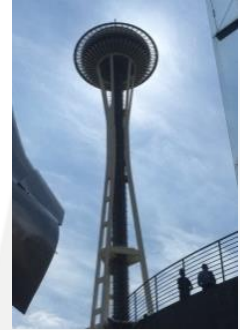
## 視察内容

**視察地:シアトル**

日程:2015年9月8日～9月14日

9月8日

成田空港からシアトルへ  
市内観光



9月9日

ワシントン大学薬学部にて講義  
Bartell Drugs (シアトル市内薬局)訪問



9月10日

ワシントン大学薬学部にて講義  
Harborview Medical Center訪問  
University of Washington Medical Center訪問

9月11日

ホテルにて栄養学についての講義  
研修内容のディスカッション

9月12日

終日自由行動

9月13日

シアトル発

9月14日

成田空港着



# 視察内容

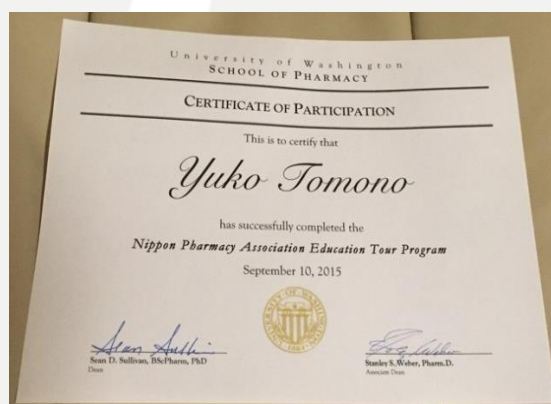
## ■医師・薬剤師による薬物共同管理

高齢者はOTC薬も含めると平均で約14種類の薬を服用している。その為、高齢者の家には薬が整理されていない状態で置いてあることもしばしば見られる。そのような薬の整理には平均で2時間近くの時間がかかってしまうこともある。一方で、最近アメリカではより処方数を少なくしていくほうが良いという考えが広まってきており、その中で薬剤師がどのように利益を上げていくのかが課題となっている。

【どのように利益を上げていくかを考える際の考え方のアプローチ】

- ・薬剤師が薬事規制に対して何を行っていくべきか
- ・現状の運営をどのようにすれば経営が改善していくか
- ・何らかの法的な規制緩和により患者さんの治療が改善するか
- ・法律を変えるために薬剤師は何をしてきたか・何をしていくべきか
- ・薬局運営に関して何が障害となっているか

などを考えていくことが重要である。法的なアプローチをしていくために薬剤師は薬を渡すだけではなく、医師以上に患者さんから求められる価値ある存在になっていくことが求められる。その価値をどのように政治家に訴えかけるか、どのように患者さんに提供していくのかという方法を考えなければならない。具体的な活動として挙げると、例えば乳癌学会などの専門家が集まる団体の中で他の業種と連携をとり、チームとして政治に発信していくなどがある。居心地の悪い思いをすることもかもしれないが、我々薬剤師はそれに慣れ、そのような活動を通して薬剤師の地位向上を目指さなければならない。



## 参加者からの感想

アメリカでは薬学部に入學する前に、学力だけではなく、コミュニケーション能力や、薬剤師としての資質を問われるため、学生のうちから薬剤師としてのプロ意識が高く、また周囲からも入學した時点で薬剤師として歓迎されるなど、日本の入試制度や学生の意識の違いを感じました。講義ではリーダーシップや協会という単語が頻繁に出てきて、アメリカの薬剤師がリーダーシップや協会を重要視していることも印象的でした。アメリカの薬剤師は予防接種を行うことができるなど薬剤師の仕事は幅広く日本とは異なっており、薬剤師はセルフメディケーションを推進するなど病気の予防についての役割が大きいと感じました。

